

パッチワークから プラットフォームへ

Red Hat Ansible Automation Platform
を導入する準備を整える



目次

03	はじめに
04	第1章： アップストリームの Ansible と Red Hat Ansible Automation Platform の違い
06	第2章： アップストリームの Ansible は強力 でも「無償」ではない理由
07	第3章： Ansible Automation Platform が 成長する組織の効率的なスケーリン グをサポートする方法
08	第4章： エンタープライズグレードの自動化 が組織にもたらすメリット
10	第5章： 自動化プラットフォームを使用して セキュリティを強化
11	まとめ
12	追加情報 Red Hat Ansible Automation Platform ファクトシート

はじめに

先進的なインフラストラクチャ、アプリケーション、セキュリティ、ハイブリッドクラウド環境の複雑性が増すにつれ、自動化は IT 組織にとってさらにミッションクリティカルなものになっています。

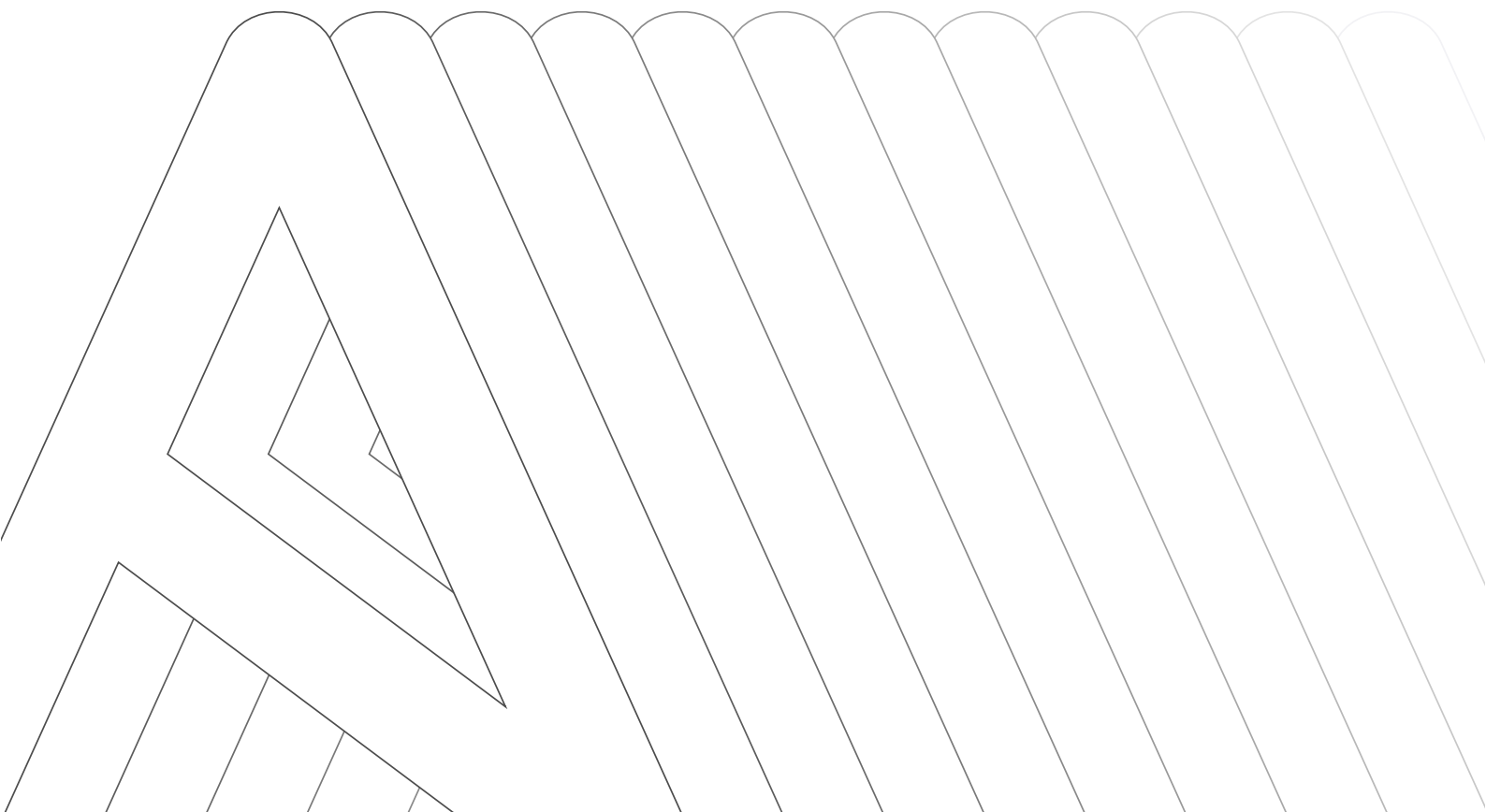
こういった複雑な環境間に存在する入り組んだ関係性と依存関係を考慮すると、スケーラブルな自動化戦略によってサポートされる統一自動化プラットフォームが不可欠です。

IT 組織の幹部が自動化ソリューションの導入を検討する際には、そのソリューションが組織の現在の要件に対応しているだけでなく、将来の拡張にも対応していることが極めて重要なポイントとなります。また、投資対効果 (ROI) を見極めるためには、目に見える費用と、生産性の向上や従業員の満足度といった数値化しにくい利益の両方を考慮した厳密な財務分析が必要です。

セキュリティ重視を強く推し進めていくことも最優先事項です。新しいソリューションが新たな脆弱性を生み出したり、確立された業界の規制から逸脱したり、企業のデータ保護プロトコルを侵害したりすることがあってはなりません。

こういった重要な選択肢を検討する際、IT 自動化の事実上の業界標準である Ansible® が有力な候補として浮上することでしょう。その次に判断しなくてはならないのは、コミュニティが開発したバージョンの Ansible と Red Hat® Ansible Automation Platform のどちらが自社のビジネスに最適なソリューションかということです。

両者は共通のコアを備えていながらも、サポートレベル、拡張機能の範囲、想定されるユースケースは 2 つのソリューション間で大きく異なります。この e ブックでは、**Red Hat Ansible Automation Platform とアップストリームの Ansible の違いと、Red Hat Ansible Automation Platform が、ミッションクリティカルな自動化によってスケーラビリティとセキュリティを維持しながら投資対効果 (ROI) の最大化を試みる組織にとっていかに強力な選択肢であるのか**について説明します。



アップストリームの Ansible と Red Hat Ansible Automation Platform の違い

自動化を大規模に実装しようとする多くの組織にとって、Ansible は中核的な存在です。そのエージェントレスな性質により最適化された自動化が促進され、先進的なビジネスがソフトウェアのプロビジョニング、アプリケーションのデプロイ、構成管理のサポート、その他多数の自動化タスクを実行することが可能になります。

Ansible の中核はオープンソース・プロジェクトであり、無料で使用できる上、誰でも変更することが可能です。このバージョンの Ansible は、幅広い開発者コミュニティからアップデートや新機能が提供され、ソースコードは一般に公開されています。ユーザーは自由にプロジェクトに貢献し、変更を加えることができます。

しかし、コミュニティ以外のメリット、つまりソフトウェアのサポート、セキュリティテスト、相互運用性、ライフサイクル保証はありません。

これは、保証された応答時間やサービスレベル契約 (SLA) がなく、セキュリティ制御やロギング、監査といった企業向け機能も持たないということを意味します。また、効率的で一貫性のある自動化コードをより迅速に作成するために役立つ生成人工知能 (生成 AI) がいないということでもあります。アップストリーム版の Ansible は、自動化するマシンのエンドポイントのセキュリティに直接アクセスでき、サポートとメンテナンスに必要な労力と時間を惜しまない個人または小規模チームが使用する場合に最適です。

アップストリームの Ansible は、ミッションクリティカルな自動化には適していません。

一般的に、ユーザーが Ansible に慣れ親しみ、プロジェクトや自動化全般に対する能力を高めていけるのがアップストリーム・プロジェクトです。多くの場合、自動化の学習や実験には適していますが、ミッションクリティカルな自動化には適していません。

Ansible のエコシステム内には、ユーザー・インタフェース (UI) のほか、ロールベースのアクセス制御 (RBAC)、監査とログ、高度なワークフロー、ジョブスケジューリング、およびその他の機能を作成する機能を提供する「AWX」のようなアップストリーム・オープンソース・プロジェクトもあります。しかし、Ansible のアップストリーム・プロジェクトはすべて、スタンドアローンのソフトウェアプロジェクトとして開発された

わけではなく、企業のミッションクリティカルなニーズを念頭に置いて開発されたものでもないことは覚えておく必要があります。

アップストリーム・プロジェクトでは、安全なソフトウェア・サプライチェーンや、複数のデータセンターとクラウドにまたがるドメイン間のワークフローのオーケストレーション、長期的な持続可能性に必要な Ansible 開発者へのサポートツールの提供などは考慮されません。Ansible のアップストリーム・プロジェクトは、オープンソースの開発者が実験的機能を迅速に実装できる、変化の早いソフトウェアプロジェクトです。

Red Hat が Ansible を強化および製品化したバージョンを維持している理由はそこにあります。この製品版は、20 以上の Ansible 関連オープンソース・プロジェクトで構成され、単一のサポートされたプラットフォームに仕上げられています。

Red Hat Ansible Automation Platform は、IT 組織がリスクの軽減、投資対効果 (ROI)、規模、セキュリティ、コンプライアンスに焦点を当てながら、大規模な自動化を行うことに特化して設計されています。

このエンタープライズ版 Ansible プラットフォームを利用するにはサブスクリプションが必要であり、自動化ソリューションを求めている IT 企業のニーズと目標に応えるさまざまな機能が含まれています。アップストリームの Ansible が主に個人向けだとすると、Red Hat Ansible Automation Platform は主に組織向けだと言えるでしょう。

しかし、この 2 つのプロジェクトはつながっています。

セキュリティが強化されたプラットフォームにおけるアップストリームのイノベーションのメリットを見つけましょう。

コミュニティの Ansible プロジェクトは、いわゆる「アップストリーム」プロジェクトであり、Ansible のコア開発のハブでありソースです。Ansible Automation Platform はダウンストリームのプロジェクトであり、Ansible を追加開発によって企業組

織やビジネスクリティカルな環境向けに強化したバージョンです。コミュニティ版 Ansible における重要な開発内容は Ansible Automation Platform に反映され、時には逆に、Ansible Automation Platform の開発内容がアップストリームである Ansible のコミュニティプロジェクトに組み込まれることもあります。

Red Hat のお客様向けビジネスモデルは常にこのようなオープンソース・コミュニティとのコラボレーションに基づいており、それが安定性、パフォーマンス、セキュリティを必要とする最もクリティカルな環境向けの Red Hat Enterprise Linux® と Red Hat OpenShift® の成長につながっています。

Ansible という名前の由来

「Ansible」とは、長距離をほぼ瞬時に、光よりも速いスピードで通信できるデバイスを指します。もともとはアーシュラ・K・ル＝グウィン1の小説『ロカノンの世界』で使われたもので、以来、フィクションの世界では標準的な用語となっています。Ansible プロジェクトの名前はここから取られています。¹

DISCOVER®

[事例の全文を読む](#)

Discover の自動化戦略により年間 80 万時間分の労力を削減

Discover は、デジタルバンキングおよび決済に従事する大手企業であり、規制要件の厳しい環境で事業を行っています。事業全体のプロセスの数は膨大であり、同社が成功するためには、かなりのレベルの厳密さで事業を運営することが不可欠です。Discover は、予測可能で一貫性のあるプロセスを作成できることが、イノベーションと継続的な成長を実現するための鍵であることに気付きました。

Ansible Automation Platform は、構成可能でコラボレーティブで信頼できる実行環境を備えた理想的なプラットフォームを提供し、手作業やエンジニアリング以外のタスクを評価し、それぞれに適した自動化ソリューションを特定するプロセスを容易にしました。

「反復可能なソリューションを使用すると、当社のビジネスの他の分野でこれらを極めてすばやく、より頻繁に開発してデプロイすることができます。当社にとってこれは重要なイネーブラーであり、投資対効果 (ROI) も向上できます」
– Discover Financial Services 取締役 Joe Mills 氏²

¹ 「[Ansible](#)」、Dictionary.com、Random House Unabridged Dictionary、2023 年 6 月 12 日にアクセス。

² Red Hat 事例、「[Discover、徹底した自動化の文化で年間 80 万時間を削減](#)」、2022 年 3 月。

アップストリームの Ansible は強力でも「無償」ではない理由

アップストリームの Ansible を使うとソフトウェアの初期費用がかからないため、Ansible Automation Platform よりも費用対効果が高いように見えるかもしれません。しかし、現実にはそう簡単ではありません。個人ユーザーのレベルを超えて IT 組織全体で運用することを考えた場合、ビジネス環境でアップストリームの Ansible を維持するための費用は、Ansible Automation Platform サブスクリプションの価格をはるかに上回る可能性があります。

その理由は、それぞれのプロジェクトがどう構築されているのか、そして誰のために設計されているのかという点にあります。

アップストリームの Ansible は、1 つのプロジェクトというよりも 20 以上の個別の関連プロジェクトとさまざまな目的のための数十種類のツールをパッチワークのようにつなぎ合わせたものと言えます。このようなプロジェクトは、個人レベルでは強力なツールになり得ますが (bash や Python のスクリプトの代わりに、再利用可能で人間が理解できる Playbook を使えるようになるなど)、IT 組織のミッションクリティカルなニーズを考慮して総合的に設計されているわけではありません。

一方、Ansible Automation Platform は、複数のオープンソース・プロジェクトを 1 つのインストーラーでテスト、統合、バンドルして、すぐに使えるソリューションにしたものです。また、Ansible Automation Platform はオープンソース・プロジェクトのコレクションを認定しているため、それらがどのように機能し、どのようなコンテキストで使用されるべきかを正確に知ることができます。そしてこのソリューションは、ベアメタル、仮想マシン、コンテナ、または AWS、Google Cloud、Microsoft Azure などの多くの人気クラウドプラットフォームなど、複数の異なる環境にインストールできるようにパッケージ化されています。

アップストリームの Ansible がエンタープライズ自動化に必要な機能を十分に実行できないというわけではありません。そうした機能はそもそも存在していないことが多いのです。通常、パッチワーク的な個々のプロジェクトでは考慮されることさえありません。

自社のニーズに合ったソリューションを作り出せるか否かは、パーツをつなぎ合わせるエンドユーザー次第となります (時間効率の良い方法でそれを実行する能力があるかはまた別問題です)。

例えばとして、自動車をキットから作ることを想像してみてください。自動車作りの趣味に没頭し、そのための時間と手段を自由に使える人には最適ですが、通勤する、通院する、家族との時間を過ごす、子供を学校に迎えに行くなどのために信頼できる交通手段を必要とする人にとって、これは好ましい選択ではありません。専門知識があるかどうかではなく、時間とリソースに見合う価値があるかどうかが問題になります。

キットから作る自動車は、信頼できるメーカーによって組み立て済みの自動車を購入するよりも初期費用が安く済むかもしれません。しかし、最初に機能させるために必要な時間とリソース、そしてその後のメンテナンスのために必要な時間とリソースを考えると、通勤のための実用的な選択肢というよりは、趣味のプロジェクトとしての側面が強いと言わざるを得ません。

戦略的かつ全社的な自動化のために、アップストリームの Ansible か Red Hat Ansible Automation Platform を選択する場合にも、同様のことが言えます。

アップストリームの Ansible を使用する場合、さまざまな Ansible プロジェクトの統合されていないパッチワークの要素を Red Hat のサポートなしで管理し、維持する必要があります。これにはコストと時間がかかるだけでなく、将来的に重大なセキュリティリスクが生じます。結果的に、組織全体の処理能力の大部分を自動化ソリューションの管理に費やすことになり、イノベーションおよび顧客ニーズへの対応という中核的な目標に向かって前進できなくなってしまいます。

Ansible Automation Platform とアップストリームの Ansible の具体的な違いについて、詳しくは[こちら](#)をご覧ください。

702%
5 年間の投資対効果 (ROI)

Enterprise Strategy Group の Economic Validation 調査の分析で、Red Hat Ansible Automation Platform が 5 年間で 702% の投資対効果 (ROI) を実現することがわかりました。³

2,000 万米ドル
の節約
DIY の自動化と比較した場合

Red Hat Ansible Automation Platform は、さらに 2,000 万米ドルのコスト削減を追加で実現します。これは、DIY の自動化ではまず不可能です。³

³ Aviv Kaufmann, 「[Red Hat Ansible Automation Platform と DIY 自動化の経済的利点](#)」、Enterprise Strategy Group, 2023 年 6 月。

Ansible Automation Platform が成長する組織の効率的なスケーリングをサポートする方法

テクニカルサポート、認定およびサポートされたコンテンツ、ホストされた管理サービス、リスク低減など、完全なプラットフォーム・エクスペリエンスとしてライフサイクルサポートを備え、Ansible Automation Platform は企業による自動化の作成、管理、拡張の取り組みをサポートします。

このサポートにより、自動化を始めたばかりの組織にも、新しいユースケースを拡大したいと考える組織にも適したプラットフォームとなります。これから使い始めるお客様のために、Red Hat トレーニングは無料の [Ansible Basics: Automation Technical Overview コース](#) を提供し、このプラットフォームをわかりやすく紹介しています。

また、Ansible Automation Platform の管理を自社で行いたくないお客様向けに、[Microsoft Azure 上で利用でき Red Hat が管理する](#) アプリケーション・サービスもご用意しています。

Ansible Automation Platform は以下のような機能を備えています。

- **Red Hat Ansible Lightspeed**：自動化チームが信頼できる自動化コンテンツを迅速かつ効率的に作成、導入、維持できるように支援する生成 AI サービスです。
- **Event-Driven Ansible**：ユーザー定義の、ルールベースのコンストラクトを使って各種 IT アクションを自動化でき、IT 環境全体でのさまざまなユースケースに対応するエンドツーエンドの自動化されたシナリオを作成できます。
- **Automation mesh**：制御能力と実行能力を個別にスケーリングし、ダウンタイムをほとんどまたはまったく発生させずに、自動化を必要とするエンドポイントの近くで自動化を実行します。

また、セキュリティインシデントは、法令順守要件がある組織に大きな影響を与える可能性があります。Ansible Automation Platform は、コミュニティ版 Ansible では困難な方法で、セキュリティ対策の自動化を可能にします。

3,475 万米ドル

IDC の調査によると、Ansible Automation Platform ユーザーの 3 年間の平均 ROI は 3,475 万米ドルです。⁴



[事例の全文を読む](#)

Cepssa、Red Hat Ansible Automation Platform で効率を向上

世界的なエネルギーおよび化学企業の Cepssa は、コスト、リスク、ダウンタイムを削減しながら、効率を高めてコンプライアンスを維持したいと考えていました。この目標を達成するために自動化を活用し、労働時間の効率化、サービス応答時間の改善、IT セキュリティの強化、組織文化の変革を実現しました。コミュニティ版 Ansible を導入した後、Cepssa は全社的に自動化を展開する際に Ansible Automation Platform に移行することを決定しました。

「当初は、コミュニティ版 Ansible を使用して小さなサービスを自動化していました。その後、オンプレミスで動かしていた SAP プラットフォームを AWS クラウドで動作する SAP S/4HANA® へと移行させる複雑なプロジェクトを実施しました。自動化が役立つことは理解しましたが、目標を達成するためには自動化プラットフォームが必要でした」
– Cepssa 開拓および運用部門 自動化管理者 Francisco José Martín 氏⁵

⁴ IDC ホワイトペーパー (Red Hat 後援)、「[Red Hat Ansible Automation Platform のビジネス価値](#)」、Document #US51839824、2024 年 3 月。

⁵ Red Hat 事例、「[Cepssa、Red Hat Ansible Automation Platform で効率を向上](#)」、2022 年 5 月。

エンタープライズグレードの自動化が組織にもたらすメリット

現代の IT 組織に対する急速に高まる期待に応えるために、リーダーはチームの運用効率の向上に重点を置いています。

この領域では、エンタープライズグレードのプラットフォーム自動化によってサポートされる包括的な自動化戦略が多大な価値を付加できます。これらの取り組みの多くは、アップストリームの自動化によって小規模に実装することが可能ですが、組織全体にソリューションを拡張し、ビジネスにおける自動化の可能性を最大限に引き出すことはますます困難になっています。

自動化の取り組みで一般に求められる成果は複数あります。先進的かつ戦略的な IT 企業は、自動化を利用して次のことを実現したいと考えています。

- **運用効率の向上**
自動化は、ルーチンタスクを人間よりも迅速かつ正確に処理し、業務効率を高めることができます。自動化がなければ、組織は先進的な IT 環境における仕事のペースに追いつくことが難しくなり、問題が発生した際にダウンタイムを最小限に抑えることができません。
- **顧客満足度の向上**
自動化により、応答時間を短縮してサービスの信頼性を高めることで、顧客満足度を向上させることができます。
- **データの分析**
自動化されたシステムは、人間よりも効率的に大量のデータを収集および分析でき、意思決定のための価値ある知見を提供します。
- **コスト削減の実現**
業務を最適化し、ミスを減らして効率を高めることで、自動化は大幅なコスト削減を実現します。
- **AI 導入のための基盤の構築**
自動化によって企業は業務の標準化と体系化を実現し、AI イニシアチブの基盤を構築できます。
- **人材の確保と維持**
自動化などの先進技術やスキル向上トレーニングに投資することで、人材の確保と維持の可能性を高めます。
- **スケーラビリティの向上**
自動化は、IT 組織は効率的に業務を拡張することができます。自動化なしでは、ワークロードの増加やビジネスの成長に対応するための拡張に労力とコストがかかります。
- **リスクの低減**
自動化は細かな指示に忠実に従うので、重要な IT プロセスでエラーが発生するリスクを低減させるのに役立ちます。
- **リソースをイノベーションに活用**
自動化によって人的リソースを解放し、より戦略的で革新的なタスクに集中させることができます。
- **競争上の優位性の獲得**
先進的な企業の多くは、自動化を利用して、より迅速で信頼性の高いサービスを提供することで競争力を獲得しています。

これらのメリットはどれも、個人またはチームがアップストリームの Ansible プロジェクトを使用して実現できるものです。しかし、プロジェクトをこのような方法で構築する場合、業務上の負担が大きだけでなく、繰り返しや規模の拡大を思い通りに実現できない可能性があり、高コストとリスクが伴います。また、すべての取り組みをカバーする標準化やガバナンスが存在しないため、あるプロジェクトのために作られた手作りの自動化ソリューションが、別のプロジェクトのために作られたソリューションと衝突する可能性もあります。また、手作業で作られたプロジェクトは、ライフサイクルのメンテナンスが大きく異なる可能性があり、ミッションクリティカルなアプリケーションにおいてそれを予測してサポートするのは非常に困難な作業です。

**1,860 万米ドル
削減**

IT 運用作業のコスト

**30% 自動化を
増加**

44% 少ないリソースで実現

81% 高速化

最初の自動化達成までの
時間

Red Hat Ansible Automation Platform により、5 年間で 1,860 万米ドルの IT 運用コストの削減が可能です。これは DIY による自動化の 2 倍以上です。³

Red Hat Ansible Automation Platform を使用した場合、DIY による自動化よりも 44% 少ないリソースで、30% 多くの自動化を実現できます。³

Red Hat Ansible Automation Platform は、初期自動化機能を DIY の自動化よりも 81% 短時間で実現します。³

Ansible Automation Platform にはエンタープライズ自動化機能が組み込まれており、目標を達成するためのツールやサービスが用意されているうえ、すべてが同じような方法で連携できるように設計されています。つまり、今は 1 つか 2 つのプロジェクトしか自動化する予定がなくても、将来のプロジェクトはすべて、既に使用している自動化から発展させることができるということです。

Red Hat の **幅広いパートナーエコシステム**も、自動化のプロセスをサポートします。認定パートナーがお客様の IT 環境の評価、初期コースケースの開発、Red Hat サブスクリプションの取得を支援します。パートナーは、Ansible Automation Platform の初期導入にとどまらず、追加の自動化プロジェクトや、企業やドメイン全体でのマネージドサービスの利用を支援します。

**854 万米ドル
の売上高増加**

また、組織全体のさまざまなチームで Ansible Automation Platform が不完全に実装されていて軌道修正に悩まされている組織のために、Red Hat コンサルティングが複雑性を克服するサポートを提供します。Red Hat コンサルティングは、AWX とアップストリームの Ansible を使用している組織に対して、**Red Hat Ansible Automation Platform への移行の際にエキスパートによるガイダンスと支援を提供**し、課題を克服して自動化の目標を達成するお手伝いをします。

Ansible Automation Platform を使用したエンタープライズ自動化により、どれだけのコスト削減が可能かを計算してみましょう。

IDC の調査によると、Ansible Automation Platform により年間売上高は平均 854 万米ドル増加します。⁴

³ Aviv Kaufmann, 「[Red Hat Ansible Automation Platform と DIY 自動化の経済的利点](#)」、Enterprise Strategy Group, 2023 年 6 月。

⁴ IDC ホワイトペーパー (Red Hat 後援), 「[Red Hat Ansible Automation Platform のビジネス価値](#)」、Document #US51839824, 2024 年 3 月。

自動化プラットフォームを使用してセキュリティを強化

先進的なデジタル環境では、ほとんどの組織が、組織のシステムとデータを保護するために必要な対策を明確に理解したセキュリティチームを備えています。

しかし、システムやアプリケーションを手作業で設定するプロセスは、特に何千ものシステムを扱う場合、大きな課題となります。これには相当な時間と高度なスキルを要し、現実的に利用できる以上のリソースが必要となります。

デジタル環境がより複雑になり、脅威がより巧妙になるにつれ、この統合の課題が極めて重要なものになります。特に、企業は中核的なビジネス機能をデジタル・インフラストラクチャに大きく依存しているため、堅牢なセキュリティ対策を確実に実施することがますます重要になっています。

自動化は、このスキルとリソースのギャップを埋める有力なソリューションとして登場しました。自動化はセキュリティ標準を自動的に適用して実施することにより、数に關係なくすべてのシステムとアプリケーション

で一貫した保護を確保することができず、セキュリティ管理に自動化を導入すると、応答時間の大幅な短縮と、脆弱性の減少という 2 つの効果が得られます。

Ansible Automation Platform は、プライベートな認定コンテンツのための信頼できる証拠保全がプラットフォームに組み込まれており、**セキュリティ重視の自動化システム**を構築できるツールを活用できます。アップストリームの Ansible では、基本的なレベルで Ansible に組み込まれているシンプルな監査以外に、よりセキュアなツールの構築を支援するメカニズムはありません。

また、Red Hat では、テクニカルアドバイザー兼支援者である[テクニカルアカウントマネージャー](#)とのプロアクティブなプランニングをマンツーマンで行い、チームをセキュリティのベストプラクティスに導く支援を提供

しています。デプロイの前、途中、後に至るまでの全行程でサポートし、お客様に必要なものを確実に提供できるようにします。

自動化によるセキュリティ強化の詳細について、詳しくは[こちら](#)をご覧ください。

SCHWARZ

[事例の全文を読む](#)

Schwarz Group、Red Hat Ansible Automation Platform で IT を自動化

ドイツの小売企業である Schwarz Group は、33 カ国で 12,500 以上の店舗を運営しています。国際的なプレゼンスを拡大するためには、一貫性のある店舗管理と、地元の需要に適応できる柔軟性および新店舗を迅速にオープンするためのアジリティ（特に新しい市場で）を両立させる必要があります。Schwarz IT は、社内チームが使用していた Puppet の代わりにオープンソースの IT 自動化ソリューションを採用することを検討していました。同社は、サポート付きのエンタープライズ・ソリューションである Red Hat Ansible Tower（現在は Automation controller として Ansible Automation Platform に含まれる）に切り替えることにしました。

「競争力を維持するには、新しいデジタル機能と安定したタイムリーなサービスをすべての店舗に提供する必要があります。この目標を達成する唯一の方法は、Red Hat Ansible Automation Platform のような一元化された自動化プラットフォームを使用することです」

– Schwarz IT コアインフラストラクチャサービス Storeserver 統括責任者 Felix Kuehner 氏⁶

⁶ Red Hat 事例、「[小売業の Schwarz Group、Red Hat Ansible Automation Platform で IT を自動化](#)」、2022 年 5 月。

まとめ

自動化は、先進的な IT スタックにとって不可欠かつ戦略的な柱です。

Red Hat Ansible Automation Platform は、組織のチームを統合し、テクノロジー投資の価値を最大限に引き出し、AI 導入のための強固な基盤を構築できるようにすることを意図して作られたエンタープライズグレードのソリューションです。また、テクニカルサポート、認定およびサポートされたコンテンツ、ホストされた管理サービス、リスクの軽減を含む、完全なプラットフォーム・エクスペリエンスを提供します。

Red Hat Ansible Automation Platform で、お客様のビジネスに適したプラットフォームを導入して、プロジェクトの「パッチワーク」から卒業しましょう。

Ansible Automation Platform を使用して成功した企業の事例をご覧ください。

成功を収めている企業は Red Hat を活用しています

- フォーチュン 500 に選出されている商業銀行の **67%** が Red Hat 製品を利用⁷
- フォーチュン 500 に選出されている航空会社の **83%** が Red Hat 製品を利用⁷
- フォーチュン 500 に選出されている通信事業者の **64%** が Red Hat 製品を利用⁷

⁷ Red Hat 顧客データとフォーチュン 500 リスト、2023 年。

Red Hat Ansible Automation Platform ファクトシート

Ansible Automation Platform とコミュニティ版 Ansible の比較

数ある中から Red Hat Ansible Automation Platform の機能の一部をご紹介します。

- **Red Hat Ansible Lightspeed**
Ansible Lightspeed は、IBM の watsonx Code Assistant を使用して、自然言語プロンプトを Ansible Playbook に変換します。Ansible Lightspeed を使用すると、自動化コンテンツを作成できるユーザーの数を増やすことができます。専門知識を自動化コードに変換するために開発者である必要はありません。
- **自動化コンテンツコレクション**
Ansible Content Collection は「コレクション」とも略され、メインの github.com/ansible/ansible 開発ブランチから独立してコンテンツを構造化するフォーマットです。コレクションの利点として、一貫性がありコンプライアンスに準拠した配信のために厳選および認定されている点があげられます。
- **Event-Driven Ansible**
Ansible Automation Platform の最新機能であり、ユーザー定義かつルールベースの構築により IT アクションの自動化を支援します。サードパーティツールからイベントを受信し、取るべきアクションを決定し、自動的に応答します。
- **Automation execution environment**
Red Hat Ansible Automation Platform に不可欠な Automation execution environment は、Ansible の自動化、そのコンテンツ、および関連する依存関係を格納するコンテナイメージです。Ansible Playbook を実行するための、一貫性と可搬性のある定義された環境を提供します。
- **Automation controller**
Ansible Automation Platform の中心的な要素である Automation controller は、自動化のコントロールプレーンとして機能します。以前は「Ansible Tower」と呼ばれていたものをアップデートしたバージョンであり、組織全体の自動化のための標準化、運用、権限委任の機能はそのままに、より洗練されたアーキテクチャで強化された機能を備えています。
- **Automation mesh**
Ansible Automation Platform の Automation mesh コンポーネントは、自動化をスケーリングするための、シンプルで信頼性の高いフレームワークを提供します。
- **Automation Hub**
Automation Hub は、サポートされている Ansible Content Collections を見つけて使用する場所です。コレクションはサブスクリプションに含まれています。つまり、必要なツールを見つけるために数多くの異なるアップストリーム・プロジェクトを探し回るのではなく、1 か所ですべてを手に入れることができます (そして期待通りに機能するという確信が持てます)。
- **Automation Analytics**
Automation Analytics により、自動化のパフォーマンスを完全に把握でき、情報に基づくデータ駆動の意思決定を下せます。
- **Red Hat Insights**
Red Hat Insights for Red Hat Ansible Automation Platform により、インフラストラクチャのパフォーマンスの問題、システムの可用性、セキュリティの脆弱性を監視してプロアクティブに解決できます。
- **Ansible development tools**
Ansible Automation Platform には、execution environment builder や automation content navigator など、Playbook を開発するための多くのツールが含まれています。

また、Red Hat は、Ansible Automation Platform を使った自動化に関連する以下のようなサービスを複数提供しています。
- **トレーニングと認定**
Red Hat トレーニングと認定は、IT プロフェッショナルが Red Hat Ansible Automation Platform の自動化、設定、管理を成功させるために必要なスキルを評価し、習得するのに役立ちます。
- **コンサルティング**
Red Hat コンサルティングは、Red Hat Ansible Automation Platform の導入と統合を成功させ、ビジネス価値を高めて DevOps プラクティスの強固な基盤を構築する一元的な自動化プラクティスの構築と標準化を支援します。
- **テクニカル・アカウント・マネージメント (TAM) サービス**
Red Hat テクニカルアカウントマネージャー (TAM) は、セキュリティに重点を置きながら Red Hat ソフトウェアに関する計画とそのデプロイを適切に行うための支援を必要とする顧客およびパートナー向けの技術アドバイザーです。

Ansible Automation Platform とアップストリームの Ansible プロジェクトの技術比較：

	Red Hat Ansible Automation Platform	アップストリームの Ansible
インストール	RPM によるパッケージングおよび Red Hat カスタマーポータルでのバンドルインストーラーが提供されます。Kubernetes の知識は必須ではありません。	Minikube のみ。
生成 AI による自動化作成のサポート	Ansible Lightspeed を使用して利用可能です。	なし
開発者とクリエイターのサポート	Ansible コンテンツの構築、実行、開発のためのフルサポート付きツールが提供されます。	なし
安定性と一貫性	コンポーネントにより、サポートライフサイクル全体にわたって安定したブランチが維持されます。	サポートライフサイクルなし。
アップグレードと移行パスのサポート	メジャーリリースへの移行およびマイナーリリースへのアップグレードがサポートされます。	なし
柔軟なマルチ DC/DMZ アーキテクチャ設計	自動化の制御とコンプライアンスを単一のチームだけにとどまらず、より総合的な自動化戦略へと拡張できます。	なし - オプションは個々のユーザーによって構築されます。
スケールアウトの実行と組み込みのフェイルオーバー	Automation mesh が含まれ、分散型の実行を可能にする一方で、レジリエンシー(回復力)のある一元化された独立した制御プレーンを備えています。	なし
セキュリティツール	セキュアな開発ライフサイクル・プラクティスを実践し、強化された品質保証と性能テストが行われます。	テストされておらず、統合されていない 20 以上のアップストリームのオープンソース・プロジェクト。
マネージドバージョンとして利用可能	Microsoft Azure のマネージドサービスとして利用可能。その他の ハイパースケーラークラウド も近日中に対応予定です。	なし
強力なトレーニング	ワールドクラスのサポートと安定したライフサイクルが提供され、自動化プラクティスの構築と実行を支援するエキスパート人材の支援も受けられます。	コミュニティの Wiki



Red Hat について

エンタープライズ・オープンソース・ソフトウェア・ソリューションのプロバイダーとして世界をリードする Red Hat は、コミュニティとの協業により高い信頼性と性能を備える Linux、ハイブリッドクラウド、コンテナ、および Kubernetes テクノロジーを提供しています。Red Hat は、クラウドネイティブ・アプリケーションの開発、既存および新規 IT アプリケーションの統合、複雑な環境の自動化および運用管理を支援します。受賞歴のあるサポート、トレーニング、コンサルティングサービスを提供する Red Hat は、フォーチュン 500 企業に信頼されるアドバイザーであり、オープンな技術革新によるメリットをあらゆる業界に提供します。Red Hat は企業、パートナー、およびコミュニティのグローバルネットワークの中核として、企業の成長と変革を支え、デジタル化が進む将来に備える支援を提供しています。

Copyright © 2024 Red Hat, Inc. Red Hat, Red Hat ロゴ、OpenShift、および Ansible は、米国およびその他の国における Red Hat, Inc. またはその子会社の商標または登録商標です。Linux® は、米国およびその他の国における Linus Torvalds 氏の登録商標です。